

自署の名山



大分西部森林管理署
小国森林事務所

森林官 塚本順一

くじゅう連山は、大分県の九重町と竹田市にまたがる連山で、主峰久住山1787mを中心に、九州本土最高峰の中岳1791mや大船山1787mなど、1700m級の山が11峰、1000m以上が35峰を数え、九州の屋根とも呼ばれています。私の担当する国有林は、くじゅう



咲き誇るミヤマキリシマ（黒岩山）

雄大なくじゅう連山を満喫できる手軽な山としておすすめですが、また、健脚の方には周遊コースがあり、黒岩山から上泉水山1447m、下泉水山1296mを経由し、アセビのトンネルを通り長者原に下りてきます。上泉水一帯は、春はイワカガミ、

くじゅういっわなま。 黒岩山 (1500m) 「四季折々の眺望を手軽に楽しむ」

う連山の北西部にあたり、三俣山、黒岩山、泉水山、涌蓋山などがあり、「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されています。今ご紹介する黒岩山は、九重観光のメインルートである「やまなみハイウェイ」の最高地点、牧ノ戸峠（標高1333m）から約30分程度で頂上まで登ることができます。初夏にはミヤマ



黒岩山（手前）と涌蓋山

マイヅルソウ、コケモモなどが咲きほこり、疲れを癒してくれます。長者原からミズナラ、コナラなどの樹林帯の中にある九州自然歩道を上ると牧ノ戸峠に戻ると約4時間のコースです。近年、くじゅう地区一帯のミヤマキリシマ群落の中には、アセビやノリウツギなどによる被圧やササによる稚樹の被覆により、ミヤマキリシマが衰退する傾向が見られることから、当署では黒岩山登山道沿いに刈出し試験地を設定し、ミヤマキリシマ群落の保全に取り組んでいます。

昔の写真にため息

【宮崎北部森林管理署】当署

では庁舎入り口のロビーのスペースを利用して、昭和30年ころのトロッコによる木材の搬出風景を撮影した写真のパネルを展示室に訪れた人の目を楽しませています。この写真は、旧高千穂営林署の庁舎に展示していた写真を複製したもので、現在の八戸森林事務所管内の網の瀬川沿いの矢筈岳の絶壁の岩盤をくり貫いたトロッコ道を機関車で木材を搬出している写真など6枚です。写真はモノクロで、時代を感じる昔の写真に、訪れた人達は大きなため息をつけながら見入っていました。また、同パネルは局「九州の森林展示館」にも展示されています。



懐かしい写真をながめる方々 = 宮崎北部

「森とみどりの芸術展」



当局林友会では、秋の恒例行事「森とみどりの芸術展」を、本年度も開催しますので、職員やOB、そのご家族の皆さんの作品を広く募集します。

開催日 / 11月17日(火)～19日(木)の3日間

場所 / 九州森林管理局2階大会議室

募集作品 / 園芸・写真・絵画・生花・書道・手芸品・木工品・その他芸術作品

出展申込み・問い合わせ先 /

林友会事務局（森林整備課・森永）へ11月9日（月）までに

TEL：096-328-3682

作品集

スライ
ト

中学2年生が職場体験

森林GISで森林調査など行う

熊本市立京陵中学校（8～10日）および北部中学校（15～17日）から「ナイストライ事業」の要請を受け、京陵中5人、北



森林GISの説明を受ける生徒ら（小萩園）

部中5人の生徒が職場体験をしました。

この事業は、「心身ともに大きく成長する中学生の時期に、地域や自然の中で職場体験などのさまざまな体験活動を通じて、子どもの勤労観・職場観や感謝する力」を育成することを目的に中学2年生を対象に取り組みれているものです。

各校の生徒らは、熊本市に位置する小萩園有林で森林GISを活用した森林調査やパソコンでの処理を体験したり、南阿蘇の外輪山に位置する大野園有林では自然観察などの体験をしました。また、局内では国有有林の

仕事や九州森林官管理局の特徴について学んだり、広報紙の作成に取り組み、3日間の職場体験学習を終えました。

生徒から「働くことの大切さを学ぶことができました。両親もこんな風に働いているんだと感謝の気持ちがありました。この経験を将来に行かしたい」と思います。仕事は常に責任のあるものだと思いました」などのお礼の手紙が寄せられました。

人のうごき

（担当＝総務課）

10月1日付林野庁長官発令

計画部自然遺産保全調整官

藤原昭博（計画課）

九州局出向（計画部付）

森本光則（計画部自然遺産保全調整官）

10月1日付森林管理局長発令

計画課森林施業調整官

廣石功（計画課）

計画課企画係長

宮崎太守（計画課）

計画課経営計画第二係長

今村正伸（関東局）

森林整備課保護係長

本田勝美（屋久島署）

熊本署総務課長

森本明（森林整備課）

熊本署業務課長

奥村克（宮崎署都城支署）

宮崎署都城支署業務第一課長

中村公治（宮崎南部署）

宮崎南部署業務課長

小野貴行（熊本南部署）

熊本南部署業務第二課長

遠坂洋志（長崎署）

長崎署技術専門官

竹部浩一郎（熊本署）

鹿児島署総務係長

橋口康朗（北薩署）

屋久島署経営係長

福山親幸（屋久島署）

北薩署土木係長

六井隆文（北薩署）

佐賀署森林ふれあい係長

副島利博（指導普及課）

屋久島署管理係長

後藤直哉（企画調整室）

宮崎南部署治山係長

緒方省一郎（北薩署）

大隅署首席森林官

沼津浩明（熊本署）

熊本南部署森林官

中川秀樹（熊本署）

宮崎署都城支署森林官

山本歩（宮崎署都城支署）

北薩署森林官

竹之内彰（四国局）

企画調整室係員

萩岡茂治（職員厚生課）

職員厚生課係員

中西忠雄（国有林野管理課）

指導普及課係員

永山博美（計画課）

森林整備課係員

有吉正司（宮崎南部署）

関東局出向

谷口良治（鹿児島署）

四国局出向

宮口重光（大隅署）



鳩山首相が国連の演説の中で我が国が「温室効果ガスを1990年比で2020年までに25%削減することを指す。」と国際公約したことが先日、大きく報道されました。これにより現在の森林吸収源による削減目標の3.9%がどう変化するのかわかりま

せんが、地球温暖化防止のためには目標が何%であろうと適切な間伐などの実施のほか、伐採された木を搬出し、未永く利用することを強く

「木育」の意義と有効性

推進していく必要があると考えます。

先日、機会を得て熊本大学教育学部の田口准教授による「木育推進員養成講座」を受けてきました。

「木育」について、森林・林業基本計画では「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、

材料としての木材の良さやその利

用の意義を学ぶ、木材利用に関する教育活動」とし、それを推進することとしています。講義の内容は木の特性を示した上での簡単な手作り教材

講座を受講して、木材の利用拡大を促進する上での「木育」の意義と有効性を強く感じました。

同講座は12月13日にも熊本大学で開催されます。興味のある方は是非「参加下さい。」

（指導普及課長 石神智生）

新聞入れ作りに挑戦

8月23日、監物台樹木園において、平成21年度第3回実践公開講座「森を楽しむ(クラブ)」と題し、新聞入れ作りを行いました。

今回の講座には、17人が参加。講師に九州森林インストラクター会の村尾昭志さんを招き、新聞だけでなく雑誌なども収納できる新聞入れ作りに挑戦しました。まず、村尾さんから今回の新聞入れについて説明が行われた後、さっそく作製に取りかかりました。参加者ははじめは普段使い慣れない大道具に悪戦苦



完成した作品を手に笑顔の参加者

闘していましたが、次第にコツをつかみ、村尾さんの適切なフォローも加わり、次々に作品を仕上げていきました。

最後に、出来上がった作品を手に全員で記念撮影。自分で作った作品に愛着が湧いたようで、みなさん大事そうに持って帰りました。

(担当)指導普及課



クスノキ科と言えば3行脈で代表されるが、ヤマコウバシの葉に3行脈はない。雌雄異株であるが日本には雌株しか無く、それでも花が咲き結実する不思議な樹木である。九州では標高の低い個所に普通に見られる落葉低木である。名前は幹を折るとわずかな匂いがすることから「山香し」の意味。

冬でも葉が落ちない樹木の代表格になつている。冬になり葉は明るい褐色になつても翌春の芽吹きの時まで落葉しない。金峰山には多く分布しており冬に

30人に森林教室

【都城支署】

都城市立四家小学校とPTAの要請を受け、全児童11人を始め、教職員や保護者ら30人を対象に森林教室を行いました。森林教室では、校庭の樹木から葉っぱを採取し、ピンゴカードに貼り付け、何通り揃ったかを競う「葉っぱのシルエットビンゴ」や動物のペンダントを作る「木工クラブ」などを実施。参加の皆さんは思いにさまざまな動物を作つて



葉っぱのシルエットビンゴに夢中な児童ら = 都城支署

いました。児童らは、疲れた様子も見せず夏休みの良い思い出が出来たと喜んでいました。

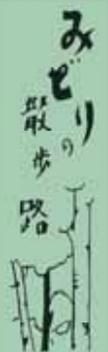
②6 ヤマコウバシ(クスノキ科)

なると「さるすべり」登山道の常緑樹の森に斑紋状なつているヤマコウバシを観察できる。

「枯葉」の問題であるが褐色になつたヤマコウバシの葉を取り、葉柄の幹とくつついていた部分をルーペで観察すると緑色の部分が散在している。維管束(養分や水分の通り道)の一部が生きているのだ。「枯葉」を触ると普通の枯葉のように粉々にはならず「張り」がある。つまり、光合成はしていないが水は葉に送られ枯死はしていないことが分かる(安楽の解釈)。樹木園中央、東端に樹高3メートル



ヤマコウバシがある、是非観察していただきたい。



十月八日は「木の日」であったが、それに関連する記事が新聞に多く掲載されていた。皆さんは既にご承知のとおり木材は再生可能な循環型資源であり、適切に森林を管理していけば、化石燃料のように尽きることがありません。二酸化炭素の貯蔵、生産及び加工時に消費するエネルギーが他の部材(鉄、アルミニウム)に比べて、少ない等の地球温暖化の防止にも貢献しています。木材を住宅に利用したときの効果として、室内の調湿効果、ダニの行動抑制効果、情緒面での安定効果、衝撃吸収効果等の様々なメリットがあります。木材の需要拡大を図っていくことが、地球環境の保全につながります。木材の需要拡大を図るためには、需要の大宗を占める住宅部材への使用をさらに拡大することが必要です。木造住宅の建設促進、鉄筋コンクリート造等(マンション等)の内装材(床材、壁材等)への木材の使用拡大を図っていくことが重要です。これから住宅の購入をお考えの方は、是非、木造住宅の購入をお願いします。(野)